

立教池袋 運動部通信

第90号 2021.12.1

～夏・秋の大会結果 新チーム始動！～

みなさん、お待たせしました！運動部通信2021年度の第二号です。

今回は夏の大会（多くの部で3年生の引退試合）の結果と、新チームになってからの秋の新人戦大会の結果をお伝えします。

残念ながらまだ多くの大会が無観客での実施となっていますが、各部の活躍の様子をこの運動部通信を通して知り、観戦ができるようになったらぜひ、様々な部の応援に行ってみてほしいと思います。

ゴルフ部 秋の戦績

中学

○関東中学校ゴルフ選手権・秋季大会 個人の部 (10/28 真名 CC ゲーリーブレイヤーコース)

41 位③中山真尋 (77)、92 位②前田隆之介 (88)

<新型コロナ感染症対策として出場制限され、例年ならば出場できた選手も不参加となった。>



高校

○東京都高等学校ゴルフ選手権・秋季大会 個人の部 (11/8 取手国際ゴルフ倶楽部・西コース)

8 位②阿出川宗哉 (75)、12 位①榎本聖大 (77)、21 位①諏訪貴皇 (79)、24 位②松崎航大 (81) ⇒ 関東大会出場

31 位①小倉魁真 (86)、32 位①山口聖生 (87)、38 位②村路湧仁 (88)、51 位①江口未来 (92)

<小倉・山口は 85 カットの関東大会まであと一步！>

今後の予定

○関東高等学校ゴルフ選手権・秋季決勝大会 (12/24~25 千葉一の宮 CC)

共通

○新体制 キャプテン：高②阿出川宗哉、副キャプテン：高②松崎航大

陸上競技部

高2大竹、U18 陸上競技大会5位入賞

10 月 22 日～24 日にかけて愛媛県にて開催された U18 陸上競技大会、いわゆる 17 歳以下の全国大会に当たる大会に高2の大竹が出場した。夏のインターハイでは全国の壁の厚さを痛感させられた。今回は負けられない同年代との勝負になるが、ハイレベルの選手たちを相手にする全国大会。夏のインターハイから調子を上げきれずにいた大竹にとっては苦戦も予想された。現地に入ってから想定した走りができず、直前で不安や焦りが募る中、ここでの勝ち負けよりもどういうレースをして何を持ち帰るか、来年にどうつなげるかと割り切って臨んだ。結果、予選では決勝進出条件の 2 着には入れなかったものの、タイム順で拾われて決勝に進出することができた。決勝でも臆することなく積極的に先頭集団でレースを運んだ。ラストの競り合いまで見ごたえのあるレースを展開し、4 位とわずか 100 分の 3 秒差の 5 位に入賞することができた。絶好調とはいかない状態であったにもかかわらず、今シーズン最後の大きな舞台で初めて全国の決勝を闘えたことで、来年につながる貴重な経験となった。



U18 全国大会 800m
第 5 位 大竹爾喜



支部対抗大会 走幅跳
第 4 位 林京乃佑

中学生では 3 年川辺が棒高跳、林、宮崎が走幅跳、1 年山川が 1500m の豊島区の代表として 10 月に行われた支部対抗大会 (都大会) に出場した。大会初日は、最後の大舞台でプレッシャーのかかる中、3 年川辺が 3m30cm で 6 位入賞、1 年山川は序盤から積極的な走りをし、6 位入賞を果たした。

大会 2 日目は大雨、暴風の最悪のコンディションの中、林が意地を見せて 6m14cm を跳び、4 位に入賞した。上位入賞こそ届かなかったが、中学生も来年に期待が持てるシーズンの終わりとなった。

ようやく大会に出場する機会が増えた今シーズン。来年は保護者の観戦ができることを祈っています。活動できること自体に感謝しながら、来年の大活躍に向けて日々コツコツと力をつけていきたいと思っています。

水泳部

●法政・明治・立教付属校対抗戦

8/29(日)に立教新座中高のセントポールズ・アクアティックセンターにおいて、法明立対抗戦が開催されました。チーム対抗で中学の部では優勝、高校の部は第2位となりました。

また、部員のベストタイム更新率は84%と、非常に良い成果を出すことができました。(1人3種目出場しました)高校3年生は本大会を持って引退となりました。コロナによる影響を最も受けた代となりましたが、最後までやり抜くことができました。

●冬のシーズンがスタート

主要な大会が夏に集中する水泳では、冬は気温だけでなく、精神的にも冬の時期となります。練習はさらに厳しいものになっていきますが、厳しい冬を乗り越えてこそ芽が開くというもの。チーム一丸となって、お互いを高めあうシーズンにしてほしいと思います。すべては、「部員全員がベストを更新する」という目標のために！！

中高剣道部

8月23日、高校剣道部は東京武道館で行われた東京都秋季剣道大会に参加した。5月に行われたインターハイ予選の結果を受けて、強豪校が集まるI部で戦うことになった。

1回戦	对上野学園	勝ち
2回戦	対海城	負け

10月10日、中学剣道部は文京九中で行われた第四ブロック秋季剣道大会に、立教池袋・千登世橋の合同チームを編成して参加した。

1回戦	対文京九中・音羽中・竹早中	負け
-----	---------------	----

11月23日、高校剣道部は晴海総合高校で行われた東京都新人剣道大会第三支部予選に参加した。

1回戦	対海城	負け
-----	-----	----

秋季剣道大会の時点では、本校の中学生チームは二年生が1名、一年生が3名。日頃からともに稽古をしている千登世橋の一年生に入ってもらい、5人チームで参加した。今回は勝ち星を挙げることはできなかったが、経験値をアップさせつつ春～夏での勝利を目指す。また、中間テスト以降から新入部員1人を迎え、これからは5人で戦うことになった。

高校チームは東京都秋季剣道大会I部に参戦した。1回戦は無難に勝ったものの、2回戦では海城高校に取得本数の差で敗れ、ベスト16入りを逃した。また、11月の東京都新人剣道大会三支部予選で再び海城と対戦。ここでも僅差で敗退した。ベスト16の壁を破るまでもう一步、ただしこの壁を破ってこそ、強豪の仲間入りとなると考えている。

冬は地道に稽古を積み重ねる時期、その中でも豊島区民大会や中学私立大会、高校三支部大会等が予定されている。それらの大会や稽古を通じてこの地力を高め、次年度の勝利につなげていきたいと思う。



山岳スキー部(中学)

全国中学校スキー大会東京都選考会 大会日程

2022年1月5日(水)～6日(木)、北志賀よませ温泉スキー場にて全国中学校スキー大会東京都選考会が行われます。年に一度の中学の大会です。



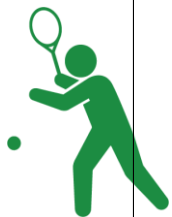
山岳スキー部(高校)

全国関東高等学校スキー大会東京都予選会 大会日程

2022年1月5日(水)～8日(土)、群馬県鹿沢スノーエリアスキー場にて全国関東高等学校スキー大会東京都予選会が行われます。インターハイ・関東大会につながる大会です。

東京都高等学校スキー大会 大会日程

2022年2月14日(月)～17日(木)、群馬県鹿沢スノーエリアスキー場にて東京都高等学校スキー大会が行われます。唯一学校対抗のある大会です。



中学庭球部

試合結果報告

<都総合体育大会団体戦(7月)> ～第5位、関東団体進出～

QF 1 - 4 対 成蹊
順位戦 3 - 2 対 石神井東

<関東大会団体戦(8月)> ～第3位、全国大会進出～

1R 3 - 2 対 サレジオ学院
QF 4 - 1 対 日大三
SF 0 - 3 対 成蹊

<関東大会団体戦(8月)>

～ダブルス優勝、全国大会進出～

ダブルス 優勝 林・金子
シングルス 出場 秋山

<全国大会団体戦(8月)> ～2回戦進出～

1R 3 - 2 対 立命館宇治
2R 0 - 3 対 名経大市邨

<全国大会個人戦(8月)> ～第3位～

ダブルス 第3位 林・金子

<ブロック大会新人個人戦(8月)>

シングルス 優勝 秋山
準優勝 岡崎
ベスト8 目黒
ベスト16 鈴木陽
ダブルス 優勝 秋山・目黒
ベスト8 鈴木陽・岡崎
鈴木新・曾根

<都新人大会個人戦(9月)>

シングルス 3回戦 秋山
2回戦 目黒
ダブルス 3回戦 秋山・目黒
2回戦 鈴木陽・岡崎

<都大会新人団体戦(10月)> ～第5位、関東進出～

3R 3 - 2 対 筑波大附
4R 3 - 1 対 筑駒
5R 3 - 1 対 松ヶ谷
QF 0 - 3 対 かえつ有明

<関東大会新人団体戦(11月)>

2R 1 - 4 対 桐蔭学園

※今年の夏のチームは、感染症拡大の影響により春合宿や練習試合を通じた鍛錬に恵まれず限られた条件の中での活動を強いられたが、常に前向きに練習に取り組み、経験豊富な部員が他の部員を引き上げ、団体戦では都5位入賞を皮切りに上位シードを破って関東3位に進出、15年ぶり22回目の全中出場を果たした。さらに個人戦ダブルスでは都・関東ともに優勝、全中3位の快挙を成し遂げた。応援の制限もありこれら代表部員の雄姿を同級生・下級生の仲間と共有できなかったことが悔やまれるが、仲間の勝利のために懸命に貢献・努力してきた先輩たちの姿を、下級生も秋からの新しいチームの中で実現させようと励んでいる。

中学野球部

<新チームの戦績>

▽ 夏季豊島区シード権大会

1回戦	vs 千川	7-2	○
2回戦	vs 城西大城西	13-0	○
準決勝	vs 西池袋	13-6	○
決勝	vs 巣鴨北	8-1	○

▽ 夏季新人第4ブロック大会

vs 志村第一（板橋区）	2-0	○	
vs 日大豊山（文京区）	4-3	○	ブロック代表で都大会へ

▽ 夏季新人ブロック対抗都大会

vs 扇（足立区）	13-8	○	
vs 三沢（日野市）	2-3	●	この結果により秋季都大会へ推薦出場

▽ 秋季東京都大会

1回戦	シード		
2回戦	vs 修徳（葛飾区）	3-10	●

夏休み中の新入都大会と10月の秋季都大会、どちらも重要な試合を落として大会を終えた。大事な試合、逆境の局面、チャンスな場面で力を発揮することが、いかに大事で難しいかを痛感した。個の局面で力を出せるか出せないか、結局はその選手の日頃の意識、努力、精神力、人間性によるところが大いにある。これを念頭に置き、来年に向けて組織作り、個人の能力向上に励んでいきたい。この3か月間で素晴らしい経験をした選手たち。今後の成長を想像するだけでワクワクが止まらない。

<今後の予定>

12月～2月：練習及び練習試合

3月：下町杯GAINTS中学野球大会に出場、その他多くの練習試合

4月～5月：春季交流大会、6月～8月：夏季大会



中学サッカー部



<第60回 東京都総合体育大会>

一回戦	立教池袋	4-1	葛西第三
二回戦	立教池袋	2-0	石神井西
ベスト16	立教池袋	3-1	豊葉の杜
ベスト8	立教池袋	0-3	修徳

<首都圏チャンピオンシップ 第四支部予選>

一回戦	立教池袋	4-2	東洋大京北
二回戦	立教池袋	1-2	成立学園

<秋季(新人)大会>

豊島区大会(予選リーグ)

1 試合目	立教池袋	0-0	西池袋
2 試合目	立教池袋	4-0	池袋

豊島区大会(決勝トーナメント)

ベスト8	立教池袋	1-4	学習院
------	------	-----	-----

5年ぶりに都大会への出場権を獲得した今年度のチームは、最終的にはベスト8という素晴らしい成績を収めることができた。区大会から高い集中力を維持して試合に臨み、全ての試合で全員が全員のために走り、戦い、サポートをし続けたことで得られた結果だと言える。思うように活動ができなかった中、最後まで本当によく頑張った。君たちの背中を見て、後輩も学べることが多いだろう。3年生の皆、お疲れさまでした。

3年生の首都圏カップと並行して始まった新人戦は、コロナウイルスの影響で活動が制限されていた新チームにとって初めての対外試合となった。個人の技術面での課題は当然あるものとして、全体を通して試合に対する様々な「準備」の面で改善すべき点が多く見受けられたように思う。部として・チームとしてまとめ、お互いに高め合えるような集団になるために、日々の活動をどう取り組んでいくべきなのか。戦術等も大切だが、こうした面にも目を向けることで、心身ともに成長してくれることを期待している。

次号は今年度の10大(重大)ニュース号、
2月頃発行の予定です。お楽しみに!(編集担当)

中学バスケットボール部

☆東京都夏季選手権大会結果報告☆

- 1 回戦 立教池袋 64 - 36 砂町
2 回戦 立教池袋 59 - 50 本郷台
3 回戦 立教池袋 49 - 78 日本学園
＜東京都ベスト 16＞

東京都のレベルの高さを考えると、強豪校の中でこの成績を収められたことは、素晴らしいことです。

現在の中学3年生はここに至るまで新型コロナウイルスによる活動中止期間や時間制限などがあり、難しい活動状況にありました。その中で、この成果は特筆すべきことであり、チームとしてのまとまりで乗り越えてきたことも数多くあります。仲間、家族に支えられた上での集大成を見せられました。

3年生、お疲れさまでした。



☆豊島区秋季新人大会始まる☆

- 1 回戦 立教池袋 50 - 47 学習院

試合経験が少ないこともあり、終始硬さの見られるゲームであった。試合出だしてリードをされるも前半終了までに逆転。そこからはシーソーゲームの末、残り時間わずかで追いつき、延長戦。最終的には3点差で勝利。

- 2 回戦 11月28日(日) 立教池袋 76 - 40 千川

立ち上がりやや硬さが見られたものの、徐々に立教のペースの試合展開に。まだまだ課題が多く残るが、試合を通じてチームとしての成長も感じられる。次戦に向けて課題に取り組んでいきたい。

準決勝 12月5日(日) 対 本郷中学校

決勝 12月12日(日) 対戦相手未定

感謝の気持ちをプレーに込めて、都大会出場に向けてがんばろう!!

(顧問 市橋祐介)

中学卓球部 主要戦績

■夏季区大会

- ・団体 優勝
- ・シングルス ベスト4 阿部 剛登

■私立大会

- ・団体A (3年生チーム) ベスト16
- ・団体B (2年生チーム) ベスト16

■秋季区大会

- ・団体 優勝
- ・シングルス 優勝 朝倉未来

※上位入賞により都大会出場 (団体)

※上位入賞により都大会出場 (個人) 4名: 朝倉・木村・瀬尾・栗原



夏の区大会の団体戦、個人で1, 2位をとった明豊中学校が大番狂わせ。総合力の高さで団体において優勝できたことは大きかった。また私学大会の団体戦では3年生もさることながら2年生もベスト16まで勝ち残ったことは近年にない好成績。秋の区大会の新チーム(1, 2年生中心)は、個人では1年生の朝倉が他を圧倒する実力で優勝。団体は村尾か栗原が勝てば優勝というところで重圧にも負けず、村尾が勝ち切ってくれた。今後は12月の都大会(個人)と1月の都大会(団体)に向けて2年生が再び活躍してくれることを願っている。1年生は途中入部も含めて7人、全員が強くなって先輩たちの優勝カップを持ち帰ってきてくれることを期待している。

2021年夏季東西東京都高校野球大会

2回戦(7月12日) (7月3日～8月2日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
RIKKIO	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
日本ウェルネス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

4回戦(7月24日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
RIKKIO	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
郁文館	0	1	1	0	2	0	0	0	×	4

2021年秋季東京都高等学校野球大会一次予選

1回戦(9月5日) (9月4日～9月23日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
RIKKIO	0	0	2	0	0	1	0	2	1	6
淑徳	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2

3回戦(7月18日)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
RIKKIO	1	0	0	0	4	4	1			10
大崎	0	0	0	0	3	0	0			3

※ 7回コールド

新型コロナウイルスの影響で開催そのものが危ぶまれた両大会ではあったが、様々な制限を付けながらも無事開催されたことへの感謝は忘れてはならない。

初戦2回戦、野球にも特化した通信制高校を撃破した夏の快進撃は見事であった。指導体制の混乱がありながらも、3年生を中心としたまとまりの良さが大きな原動力となり、4回戦まで進んだことは評価に値する。決して超えられない5回戦ではなかったが、惜敗とは言え、負けは負けとして各自が次なるステージの糧としてくれることを期待したい。

1・2年の新チームによる秋季大会も昨夏ベスト8の強豪校に快勝し、本大会まであと一歩と迫りながらの無念の出場辞退。コロナ禍における活動の難しさを痛感せざるを得なかったが、翌春までの長い期間をどのように過ごすのが次なるチーム力となるはず。与えられた条件で何が出来るか、各自が目的意識を高く持ってトレーニングに励んで欲しい。

①第60回 東京都高等学校新人テニス選手権大会

(個人の部) 9月12日(日)～

▽ シングルス

予選決勝進出…原 穰太朗 (1年)

本選1R進出…植松希大 (2年)

▽ ダブルス

本選1R進出…植松希大 (2年)・原 穰太朗 (2年)

②第1回 東京都高等学校新人テニス選手権大会(団体の部)

11月3日(水・祝)～

【登録選手】植松希大、原 穰太朗、川上竜之介、佐藤天飛、八尋椋平、島田慶大、高橋慶至、村山雄太、高坂裕貴

2R 立教池袋 5-0 町田総合 3R 立教池袋 4-1 目黒日大

4R 立教池袋 3-1 城北 5R 立教池袋 0-3 京華

以上、東京都ベスト32

③第46回 東京都私立中学高等学校テニス選手権大会(団体の部)

1チームがエントリー

④第45回 東京都私立中学高等学校テニス選手権大会(個人の部)

12月26日(日)～ シングルス 4名が出場予定

例年行われていた秋の16校戦が廃止され、新たに「都新人団体戦」が創設された初年度。全校参加型・2D3Sの5ポイントマッチで、冬の関東選抜への切符をかけた熱い戦いが行われた。個人戦で学校ポイントが未達でも出場できるメリットがある一方、登録メンバー9名という層の厚みが春季大会以上に厳しく求められる団体戦となる。関東・全国への切符をかけ、来年の11月3日は全部員で試合会場へ向かう。(顧問)

高校庭球部



高校バスケット部

●新チームがスタート

3年生が引退し、新チームが始動した。2年生が3人、1年生が14人の全17人の少数精鋭だが、先輩たちが達成できなかった都ベスト16を目指して頑張っている。

上背はないものの、キャプテン荒井を軸とした機動力の高いバスケットで、2年生を中心に日々意識の高い練習を積み、レベルアップをしている！

●新人戦第四支部大会

10/31 VS 錦城高校 91-51●

新チーム初の公式戦も、1回戦敗退。相手のフィジカルなバスケットの前に敗れたが、個々の課題・チームとしての課題も明確となった。長い冬となるが、チーム一丸となって、心身ともに成長してほしい。経験が少ない分、伸びしろの多い代だと思う。この冬の飛躍に期待している！



高校サッカー部



高校サッカー選手権予選

1次トーナメント

2次トーナメント

東京都ベスト56

1回戦

2回戦

3回戦

1回戦

対 都立武蔵 7-0 ○

対 かえつ有明 2-1 ○

対 城北 1-1 PK 4-2 ○

対 正則学園 0-2 ×

総体予選では東京都ベスト32まで勝ち進んだ為、選手権予選においてシード校となり2回戦からスタートした。特に2次トーナメント進出をかけての城北高校戦では攻め続けていたにもかかわらず延長戦でも勝負がつかずPK戦に突入した。GKの広瀬が素晴らしいセーブをし、2次トーナメント進出を決めた。上記の写真よりPK戦後の選手の安堵感が伺われる。残念ながら2次トーナメントでは1回戦で敗退し、総体予選の結果を上回ることが出来なかったが、3年生を中心としたチームワークの良さでここまで勝ち進めた。3年生お疲れさまでした。後輩諸君は今年のチームの雰囲気を受け継ぎ、新人戦に臨んで欲しい。(顧問より)

DUOリーグ結果 1部リーグ

対 R本郷 9-0○ 対 都立足立1-1△ 対 足立学園4-1○ 対 郁文館0-0△ 対 都立文京4-0○



今後の大会

2地区新人大会 シードの為 12/19~

高校卓球部

東京都高等学校新人卓球大会

団体 **立教池袋**

2回戦敗退

個人 (シングルス)

中里柊平(高1)

ベスト64

(決勝大会1回戦敗退)



新体制となり初めての公式戦だったが、練習に制限があった中でよく努力し充実した試合内容に結び付けられていたと思う。目に見える結果はもちろん重要であるが、たとえ顕著な結果に結びつかずとも、過程における多くの学びがあればそちらの方がずっと価値あることではないだろうか。卓球を通して何を学ぶのかという姿勢を、改めて意識してほしい。次の公式戦までに少し余裕があるので、しっかりと「土を耕し」春の訪れに備える季節としていこう。